

三宅村議会だより

発行 / 三宅村議会
平成二十三年一月二十四日発行
東京都三宅島三宅村阿古 四九七番地
電話 〇四九九四・五〇九五六

三宅村議会

第四回定例会

平成二十二年三宅村議会第四回定例会が十二月十四日に開催されました。

一般質問後、三宅村情報通信基盤施設設置条例他の議案七件を審議、いずれも原案どおり可決しました。

村政を問う（一般質問）

一般質問は五名の議員が行いました。その要旨を発言順に掲載いたします。

浅沼 昶 議員

問 合併浄化槽整備について

本村においては三宅村循環型社会形成推進地域計画、またその他の計画に基づき、汚泥再生処理センターの建設と合併処理浄化槽整備事業が推進されております

が、合併処理浄化槽を設置するにしても排水するU字溝が周囲にならば敷地内に浸透させなければなりません。それには普通の浄化槽よりもっと高度な浄化槽が必要になり、その他にも浸透マスの設置が必要となり経費もかなり必要となります。現在村が行っている浄化槽設置に伴う助成率を全体的に上げることにより島全体の浄化槽整備の促進を図れないか。また、現在の一七四〇世帯うち、し尿汲み取り件数は何件ですか。次に大久保浜は日本で三番目にきれいな海であるそうです。この素晴らしい海を守る自然環境に配慮した施策として大久保浜地区を三宅島の市町村設置型モデル地域と位置づけし、U字溝排水整備の積極的な取り組みはできないか併せてお伺いいたします。

答 村長

ご提言の設置補助率の引き上げについては、たしかに地下浸透式合併処理浄化槽の場合、一段と厳しい処理規準能力を有する設備が求められていることもござ

います。設置費がかさむことも考えられます。今後、国・都の補助制度の動向や他町村の状況を調査して検討してまいりたいと思っております。大久保浜地区のモデル地区のご提言でございますが、この大久保浜につきましても非常に素晴らしい海が整っているわけでございます。市町村整備推進事業により整備の場合、事業費の負担の問題あるいは設置後の維持管理費の問題等があることから、現在進めている個人の設置補助による促進を積極的に図ってまいりたいと考えております。

答 村民生活課主幹

現在のし尿汲み取り件数ですが、人口では一四四〇人で、率にして五〇・九%です。

再質問

この補助事業はいつまでですか。また、合併処理浄化槽の設置には個人にお金がかかることが伴いますし、強制的ではないのでなかなか整備の促進には難しい面がありますが、もう少し補助率を上げるなど多方面にわたり検討をし、公衆衛生の向上に努めていただきたい。

答 村民生活課主幹

助成事業は引き続き村としても推進してまいりたいと考えております。また、現在定額である助成

の補助率アップにつきましては、先ほど村長からお答えありました。現在の補助率の内容などを再度検討する中でどのような方法があるのか、また他島の状況等を含めて検討してまいりたいと思っております。

問 三宅村職員の定年について

三宅村職員の定年は条例により年齢六〇歳となっております。定年による退職の特例として、村長は定年に達した職員を最高三年を超えない範囲で勤務させることができるとなっておりますが、過去において延長になった事例はあったでしょうか。本村における現在の職員の定数は合計で二三名となっており、その職員の平均年齢または経験年数は他島に比べ一番低いそうです。また、他島に比べ採用後の経験年数も少なく、当然給料も低い職員が他島と同じ行政業務を遂行されていることは職員が優秀であると考えます。同時に現在の職員の方たちは相当本村に貢献され苦勞もされているのではないかと私は思いますが、いかがでしょうか。本村においても高齢化少子化が進む中、職員の退職に伴う人材確保に苦慮されている様子が伺えます。三十年、四十年近くも三宅島の発展に貢献された優秀な職員が再び後輩の指導を含め活

躍できる場を提供できるような施策を検討できないのか。また、六十歳ではまだまだ働ける経験豊富な貴重な人材が、三宅島発展のために村内で再び活躍できるような配慮はできないのか併せてお伺いいたします。

答 村長

過去におきましてこの条例を適用した採用事実はございません。この制度の適用にあつては、条例あるいは規則の整備が必要となることから、制度の導入に向けて課題の整備を含め見直し作業を進めているところでございますが、業務の分野あるいは身分権限の位置づけ、また給与面等の課題が残つておるところでございます。職場のスキルアップ等の観点からも永年勤務から得た経験と知識の普及は大変重要であると認識しているところでございます。この人材確保に向けて更なる努力を進めてまいりたいと考えております。職員の経験年数は浅く、その中で業務を遂行し努力をしているところでございますが、職員の日々の努力に敬意を表したいと考えております。

答 総務課長

経験年数五年以下の職員は二三名中、七一名で五四・二％、となります。なお、平均年齢は三八・

四歳です。職員は経験の少ない中で業務を行つてくれております。

再質問

定年された職員が村内で再び活躍できるような配慮はできないか再度お伺いします。

答 村長

過去に退職者の意見も聞いてみたが、村民との接触を何十年もやっているとは非常に疲れたというのが大方でございましたが、今後この辺も検討課題にしていきたいと思つております。

.....

平川 大作 議員

問 人工透析について

村長が第三定例会において、人工透析導入は総合的に判断して導入できないと判断した事を聞き、多くの村民の方からお怒りの声が寄せられました。議会が全会一致で採択をした。請願署名が一五八名集まり、また、設備整備費の補助、赤字になつた場合の運営費補助がある中でどうしてできないんだ、村長の言葉として聞きたいという事なので質問します。

以上のことから患者、患者家族、村民が納得いく説明をしていただきたい。

答 村長

国保運営協議会に諮問して答申を頂いたうえで、本年第三回定例会の一般質問において、明確に答弁しております。

再質問

マンパワーが確保できればやるということですか。その部分があいまいなので明確に答えていただきたい。

答 村長

まずは一次医療としての中央診療所の人の整備、という事がつねづね私が言つていっているとおります。これを急いでやつてまいりたい。

再々質問

調査とマンパワーの確保を一緒にやつてください。

答 村長

医者を一生懸命探している。

○高齢者対策について

問①高齢化率の高い坪田地区の認知予防のため、健康維持のための高齢者サロン、全村の高齢者のための地域サロンの進捗状況をお聞きたい。

答 村長

実施するためにはマンパワー等の問題がございます。乏しい人材でも対処できないか、三宅島社会福祉協議会とともにその方法について検討を進めてきておりますが、人材の確保には地域の皆さんにも

ご協力をいただきたい。

再質問

地域サロンの人材確保にどのような活動をされているか。

答 村民生活課長

地域サロンの人材確保については、社協と相談して元気な高齢者でできないか、ということ今調査を始めております。できましたら来年度あたりからモデルでもいいからできないかと研究を進めている。

問②シルバー人材センターが行政刷新会議の事業仕分けに伴い、事業の運営面において厳しい情勢にある。村としても、国に対して減らされた補助金を事業仕分け以前に戻すことを要望するべきと考えるがどう考えるか。

答 村長

国への要望については他町村の動向を見ながら調整を図つてまいります。その必要が生じれば当然ながら要望活動を行つていくことになろうかと考えております。今後にも必要な支援は行つてまいりたい。

問③身寄りもお金もない、年金もない高齢者が老人ホーム、病院に入る必要が生じたときどのような手順を踏んだら入ることができるのか。具体的に答えていただきたい。

い。

答 村長

福祉三法で生活保護法、あるいは児童福祉法、母子・寡婦福祉法を除きまして、高齢者をはじめとした福祉全般についてそれぞれの関係機関と連携を図る中で村の業務として対応しております。一人で悩むことなく、まずご相談をいただきたい。

問④ 病院の入院の際の付き添いを行政として何らかの手だてができないか。

答 村長

中央診療所の人員体制の中での対応は非常に厳しい状況にあることは事実でございます。中央診療所のマンパワーの安定確保に向けて取り組んでいきたいと考えております。

問⑤ 希望する高齢者の肺炎球菌の予防接種を無料でやるための予算を組めないか。

答 村長

乳幼児については、すでに肺炎球菌のワクチンを接種することで髄膜炎を予防できることから、国は接種を進めている。この件については次年度以降対応を考えてまいりたい。高齢者については村における肺炎の受診状況について調査してまいりたい。

〇バイクフェスタについて

このイベントは村民の方からも、

こんなことに使う金があったら村民のために使うことに使ってくれ、など不評の声が多い。村民の方にアンケートをとれと言ってもそれもしない。費用対効果があったのかと聞けば数値で具体的に出せない。観光の起爆剤として始まったこのイベントであるが起爆剤にもならず、高額の金が掛かり何も残らない。公道でやるという、当初の目的から外れた理由の説明らしい説明もなく今年も実施した。無い無いづくしである。そんな中で続けているイベントである。

問① ツアーの方がいい条件で来られたと喜んでしたが、ツアーの旅費宿泊費の補助はあったのか。出ていたとすればどの項目から出ているのか。

問② 参加者は何名来て、一人頭いくらか掛かっているのか。バイクの運賃補助をしなければ集まらないこのイベントは直ちにやめるべきと考えるがどうか。

答 副村長

レース参加者数は八十七台、オフロード体験ツアーは参加が三十八台、観戦ツアーには九十七名の参加がありました。ツアーの旅費、宿泊費補助のご質問ですが、ツアー旅費、あるいは宿泊費補助するということではなくて、本年度は帰島五周年の記念イベントとして

ツアー料金を設定したものであります。……

寺澤 晴男 議員

◎平野村政もあと一年余。重要課題を問う。

問 次期村長選への出馬について

残り一年ちよつとで島民は否応なしに、三宅村のカジ取りを託す人選を迫られる。

あなたは二期七年間、三宅島噴火後の多くの課題を処理し、村の姿を大きく変え、さらに困難な山場を越そうとしている。二期目最後の年で、次の課題をどう処理し実現するか。また、次期村長選に出馬するかどうか。住民は大きな関心をもって注視している。決意を伺います。

答 村長

まだ任期中であり、島民の幸せのため、しっかりと行政運営をしてまいりたいと考えております。

問 人工透析のための条件整備について

本年第三定例会で三名の議員が「人工透析導入について」一般質問し、村長は私や他の議員に「中央診療所の運営基盤が弱い。マンパワー（人力、人的資源）の安定確保

が重要。一次医療のハード・ソフトの整備拡充してから……と答弁された。そのこと自体は理解するが、その前提となる条件（マンパワー等）を整備しないで、導入先延ばしの口実にしては住民は納得しない。基盤整備、安定確保のため、何のように担当課職員に指示されたか伺います。

答 村長

常勤医師として二人目の確保が最優先の課題であり、事務長には医師の募集を指示し、関係機関に人脈を通じてお願いしており、しっかりと対応してまいりたい。

再質問

先の議会で議決した「第五次三宅村過疎地域自立促進計画（二十二年度～二十七年度）」には「検討する」と明記し、実施年度は不明だ。大丈夫か。

答 村長

しっかりと対応してまいりたい。

問 シルバー人材センターの支援策について

当団体の設立趣旨「高齢者が働くことを通じて、活力ある高齢社会、地域づくりに貢献できる……」は少子化時代の重要な財産であり、宝だと思ふ。先日『高齢者が安心して暮らせる社会を実現するために、シルバー人材センターへの支援を』と題する、会長名の要

望者が各議員に届いた。要旨は「昨年度の国の事業仕分けで、同団体の補助金の減額方針が示され、実施された場合、大きな混乱を招く。特段の配慮を賜りたい」というものでした。また、本件に関する要望署名は一〇七七名集まったとのこと。三宅村は、同団体設立、維持、発展に大きく関わってきた。同団体設置自治体の首長会議や関連する機会に予算獲得に向けて、特段の配慮を望む。決意を伺います。

答 村長

国の事業仕分けについては承知しています。二十二年一月の評価では、二一七項目にわたって仕分けを行っている。シルバー人材センターの場合、事業自体(内容)の議論はなく、人件費の三分の一の縮減を提言している。今後、国の対応を見ながら、要望の必要があれば、しっかりとやってまいりたい。

問 崖 斜面) 崩落による危険防止対策について

三池集落周辺の崖(斜面)及び沖ヶ平金曾周辺斜面の崩落の惨状は目を覆うばかりだ。三池集落の斜面については、坪田自治会長名で防止対策を要望し、東京都(三宅支庁)が『治山事業』として実施しているが、金曾斜面は大雨の度に数十メートル単位で姿が変

わる(崩れている)ように見える。金曾ダム中心部には『生活用水ポンプ』もある。都道周辺から海岸までは、三宅島空港、三宅村役場本庁舎、商工会、観光協会の各事務所、三池商港や住民の貴重な財産等があり、三宅島(村)にとって主要な玄関口であり、ガス指定解除後、商工業の主要展開の場でもある。

このまま放置すれば、金曾ダムはやがて大量の土石流を処理しきれず、交通アクセス(空港・港湾)や個人財産等に甚大な被害が出るかと心配する。行政所管(担当)からすれば、治山、防災等の対策や施策は東京都や国の管轄だが、村として、このまま現状放置は許されない。村としての対応を伺います。

答 村長

当然のことながら、ご心配の金曾ダムの前面には重要な公共施設があり、東京都も治山事業により土留め工事等対策を本年度から二十四年度までの間三カ年計画で進めていると聞いております。また砂防事業においても落石防止対策をやっていると伺っております。今後さらに、重要な公共施設があるということ踏まえて、関係機関に要望してまいりたいと考えております。

浅沼 徳広 議員

問 人工透析について

今まで私は何回となくこの質問をしています。そしてその都度期待に反した答弁が返ってきています。しかし、こうしている間にも透析を受けるために三宅島を出て行かなければならない人がいるんですよ。三宅島で導入しない限り他所の病院に迷惑をかけるんですよ。そこでお尋ねしますが、村長は導入できない理由としてマンパワー不足と二次医療の充実をあげているが、マンパワーについては解決のためどのような努力をしているか。また、私が第三回定例議会で「三宅高校に出国留学、卒業予定者に奨学金を出すから臨床工学士、看護師になつてくれ、とお願ひに行つたら」と言ったら、村長は「すぐ導入しろ」といいながら、一方でそんな悠長なことを言う」と言ったが、私にはその意味が理解できない。ただ人が足りないからといってあちこちに募集をかけているようですが、もつと積極的に自前で養成することと考えたらどうですか。一五八名に上る署名があつて議会で採択しているにもかかわらず、導入に踏み切れない理由はほかにあるのではないか。何を怖がっているん

ですか。後ろには一五八名、それ以上の人達がついているんですよ。そこでお尋ねしますが、村長の任期はあと一年ちよつとになりましたが、次期村長選に出馬しますかもし出馬するとしたら、今までの経緯からすると、さらに任期中の四年間は導入の見込みなしと予測するが、間違いですか。所信表明の中でお互いに支えあう社会の構築を目指すと言ったのは、あれは単なる飾り言葉だったんですか。近々私は、現在人工透析を受けている人の家族や友人、人工透析導入を願っている有志による、仮称『人工透析実現の為の有志の会』を発足させ粘り強く交渉・研究をし、病弱な人でも安心して三宅島に住むことができるようにする運動をしていく予定ですが、もう一度ここで考え直して導入に踏み切つてもらえないか。今決めたとしても実際運用できるのは最短でも一年はかかるでしょう。

答 村長

人工透析については考えが変わるものでもございません。やらないと言っているわけではなく、時期が来たらやるということです。

問 バイクイベントについて

今まで数回行ったイベントは島内外あわせると、あれだけのお金を使ったのだから各方面にそれなり

の経済効果をもたらしたろうが、このイベントは三宅島復興の起爆剤として始めたので、三宅島に起爆効果がなければ何にもならないわけです。しかも単発でなく継続的でなければなりません。そこでこのバイクイベントをやったがために、大体どのくらいの観光客が増したのか。また、どのくらいの金がこの三宅島に落ちたのか。

交通公園や湯舟グランドで子供達にミニバイクを試乗させていたようだが、あれと観光客とどんな関係があるのか。子供達がバイクに興味を持つのは悪いことではないが、下手をすると無免許運転とか他人のバイクを無断で乗り回すとか、そういうような教育をしたあとに試乗させたのか。今年行われたエンデュロレースは今までの中では一番レースらしかったが、あくまでも観光客が対象で島民が対象ではないはず。どうせやるなら年四回、春夏秋冬とやり、コースももっと研究して他にはまねできないコースを造り、大会以外の日も練習用コースとして開放したらどうだろう。そうすることで、コースの管理運営等に継続した雇用が発するだろうし、レーサーが頻繁に来るようになれば当然バイクの修理関係にも仕事が及ぶのではないか。また、一部に懸念されているよう

な騒音も小鳥もほとんど関係ないのではないか。今までのように毎回内容が変わるようなやり方は金をかける割には、イベントが過ぎれば忘れてしまう気がしてならない。これが年四回天候には関係なくやるとなれば、レーサーの間でも評判になってくるのではないか。そうすることによりレーサーはもちろん観光客も増え、話題になって三宅島の名が売れるのではないか。

答 副村長

オートバイを通じて三宅島を全国にPRするということは観光振興の役割を十分に果たしていると思っております。また一月から十一月までの観光客数の累計は三割増と伸びています。NHKをはじめとするマスコミ各社に取り上げられ、なかでも翌日の東京新聞朝刊の一面に写真が掲載される等十分にPR効果を発揮しました。キッズバイクについては乗る前に子供達に教育をしたあとに実施しております。来年度については今年度の実績を踏まえて担当者レベルで検討を始めているところです。議員ご提案どおり、今後三宅島ならではのバイクレースを検討してまいりたいと思えます。経済効果については、今決算中なので正確な数字は言えないが、数千円と思っております。

キッズバイクについては観光客とは直接関係ないが、子供たちの健全な育成のためです。

福澤 信哉 議員

問 伊豆 大久保地域の二分に係る) 国有財産譲与契約について

三宅村伊豆大久保地域に係る国有財産の譲与、譲受について、先に三宅村長、財務省関東財務局東京事務所長で契約書等が交わされております。(平成十七年三月)この件について何点か伺います。この地域の宅地については私の記憶では昭和三十五年前後と思えますが、当時は国が地域住民に対して、払い下げの契約を実施しております。

ここで伺います。今回国から譲与された区域はどこなのか。受け取るにあたっては国の資料に基づいて、村は国・隣接地主等、立会いのもとに境界表示の設定がなされたか。私が場所を推測するに都道大久保港線(二一四)村営バス停から大久保漁港に至る百mほどの区域だと思います。この区間の道路は過去数十年にわたり、この区域を管理する固定された組織がなかった。本件、国有財産譲与契約書を締結後すでに五年が経過して

おります。村長は速やかに三宅村村道として認定を行い、管理すべきと思うが、この大久保地域は、地盤と海水面の高さ、海岸防波堤との兼ね合いもあって地域の排水計画にしても困難な状況にあります。昨今の異常気象発生時の速やかな対応と今後の対策と検討をお願いして質問を終わります。

答 村長

経過は、地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律、これは平成十二年四月一日に施行されたものですが、いわゆる法定外公共物、うち、里道(赤道)、それと水路として現に公共の用に供されている国有財産は市町村に譲与されます。ご質問の大久保地域についても、平成十七年三月三十一日をもつて関東財務局の東京事務所長と三宅村で契約を取り交わしております。この関係で譲与された道路につきましては、大久保地区の都道と漁港の間に位置している道路であります。都道は東京都によつて整備され、維持管理をされております。今後の道路のあり方について東京都と協議し、道路改良や維持管理等も含んでご指摘の地域の全体の排水計画等も考慮しながら、よりよい管理体制を定めてまいりたいと考えております。

議長報告

平成二十二年九月から
平成二十二年十二月まで

十月十六日(土)～十七日(日)
○第三十八回小金井なかよし市民まつり参加(小金井市)

※副議長代行

○小金井三宅島友好協会セレモニー参加(小金井市)

十一月一日(月)

○東京都町村議会議長会臨時総会出席(文京区)

○北京市区・県人民代表大会友好代表团歓迎夕食会参加(文京区)

十一月二日(火)

○第二十二回東京都道路整備事業推進大会参加(千代田区)

十一月十一日(木)

○農林水産省水産庁へ要望活動(千代田区)

○佐藤副知事・各局長・都議会各会派挨拶回り(新宿区)

十一月十四日(日)

○第九回火山市民ネット交流会参加(長崎県島原市)

十一月十六日(火)

○第二十九回離島振興市町村議会議長全国大会参加(千代田区)

十一月十七日(水)

○第五十四回町村議会議長全国大会(渋谷区)

十一月十八日(木)～十九日(金)

○東京都町村議会議長会役員会出席(神津島)

○東京都町村議会議長会臨時総会出席(神津島)

○東京都町村議会議長会現地研修会参加(神津島)

十一月二十五日(木)

○平成二十二年東京都市町村議会議員公務災害補償等組合議会議第三回臨時会出席(府中市)

議会報告

【諸般の活動】

十月十六日(土)

○平成二十二年敬老の集い出席

十月二十一日(木)

～二十二日(金)

○小金井市議会行政視察対応

十月二十三日(土)

○イオン環境財団主催「三宅島植林」開会式出席

○島嶼町村職員大会開会式出席

十一月六日(土)～七日(日)

○WERIDE三宅島エンデューロレース開催に伴う石原東京都知事来島時の対応

十二月十一日(土)

○第一回三宅島磯釣りサーキット大会決勝表彰式参加

【予定】
平成二十三年第一回三宅村議会定例会は、三月に開会されます。
皆様の傍聴をお待ちしております。

【編集後記】

議会に対するご意見、ご要望がありましたらお寄せください。

議会だより編集委員会

浅沼 昶
平川 大作
長谷川 崇

